

群馬県出土獣骨データベース

——（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団編——

檜 崎 修一郎

はじめに

1. 報告者

2. 動物の足跡

3. 出土獣骨

—— 論文要旨 ——

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団〔以下、群埋文〕は、昭和53(1978)年に設立され、平成15(2003)年に設立25周年を迎えた。その間、多くの遺跡を発掘し、獣骨も多数出土している。しかしながら、過去にそのまとめが発表されたことは無い。そこで、群埋文が平成17(2005)年3月までに出版した報告書354冊を調べ、出土獣骨及び動物の足跡について、データベースを作成した。354冊の報告書の内、獣骨あるいは動物の足跡の記載が認められたものは、64冊であり、この中に68編の報告が掲載されている。

報告者は、元群馬県立大間々高校の宮崎重雄〔古生物学〕(35編)・元群馬県畜産試験場の大江正直〔獣医学〕(16編)・本報告者で群埋文の檜崎修一郎〔人類学〕(11編)・金子浩昌〔動物考古学〕(3編)の4人が主である。

動物の足跡は、全部で7例あり、3目4種が認められた。それらは、ウマ(奇蹄目)が4遺跡・ウシ(偶蹄目)が1遺跡・ニホンジカ(偶蹄目)が1遺跡・キジ(キジ目)が1遺跡であった。

出土獣骨は、5目14種が認められた。それらは、ウマ(奇蹄目)が51遺跡・ウシ(偶蹄目)が20遺跡・ニホンジカ(偶蹄目)が12遺跡・ニホンイノシシ(偶蹄目)が9遺跡・ニホンノウサギ(ウサギ目)が2遺跡・オオカミ(食肉目)が2遺跡・イヌ(食肉目)が10遺跡・イエネコ(食肉目)が1遺跡・ホンドキツネ(食肉目)が1遺跡・ホンドタヌキ(食肉目)が3遺跡・ツキノワグマ(食肉目)が2遺跡・ニホンイタチ(食肉目)が1遺跡・ニホンカワウソ(食肉目)が1遺跡・ニホンザル(霊長目)が2遺跡であった。

分析の結果、群埋文が調査した遺跡から出土した獣骨は、上位からウマ(51遺跡)・ウシ(20遺跡)・ニホンジカ(12遺跡)・イヌ(10遺跡)・ニホンイノシシ(9遺跡)という結果となり、その他の獣骨は事例が少ないことが判明した。

将来的に、群馬県内の市町村出版の報告書に記載された出土獣骨もまとめたいと考えている。

キーワード

対象時代 弥生時代～近代

対象地域 群馬県全域

研究対象 出土獣骨、動物の足跡、データベース

はじめに

出土獣骨の研究は、動物考古学という新しい学問分野として、近年、確立しつつある。これは、先駆者である元早稲田大学理工学部の直良信夫〔1902-1985〕とその後継者である元早稲田大学文学部の金子浩昌、並びに動物考古学を継承し発展させている、国立歴史民俗博物館の西本豊弘と独立行政法人奈良国立文化財研究所の松井章におうところが大きい。直良信夫は、古生物学者として、幅広く人骨及び獣骨を扱い、その膨大な業績の一部は、『日本産狼の研究』（直良、1965）・『古代遺跡発掘の脊椎動物遺体』（直良、1972）・『古代遺跡発掘の家畜遺体』（直良、1973）・『日本馬の考古学的研究』（直良、1984）等であることがわかる。

動物考古学として国内で初めての入門書である金子浩昌による『貝塚の獣骨の知識』が1984年に出版（金子、1984）され、その後、動物考古学の全国的なまとめとして、国立歴史民俗博物館が研究報告を2冊刊行している（国立歴史民俗博物館編、1991・1992）。また、国立歴史民俗博物館の西本豊弘研究室を事務局として、動物考古学研究集会在1995年からほぼ毎年開催され、さらに、雑誌「動物考古学」が1993年から2004年までに21号がすでに発行されている。前出の西本豊弘及び松井 章による動物考古学の教科書も『考古学と自然科学②：考古学と動物学』として1999年に出版されている（西本・松井、1999）。

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団〔以下、群埋文〕は、昭和53（1978）年に設立され、平成15（2003）年に設立25周年を迎えた。当事業団は、これまでに、上越新幹線・北陸新幹線・関越自動車道・上信越自動車道・北関東自動車道等の大きな建設に伴う大規模な発掘調査を行っており、都道府県レベルの事業団としては大阪府と並ぶ規模である。それに伴い、出土獣骨も多数出土している。ところが、前出の「国立歴史民俗博物館研究報告」第42集に、西本豊弘と松井 章によりまとめられている動物考古学文献目録には、出版年の1989年以前の文献が多数掲載されているが、群馬県の報告書については皆無である（西本・松井、1992）。

これまでに、群馬県出土獣骨の内、牛馬については元群埋文の考古学研究者の坂井 隆が県内の23遺跡を取り上げてまとめている（坂井、2004）。

今回、群馬県出土獣骨のデータベースを作成するにあたり、まず、第1弾として、群埋文が2005年3月までに出版した354冊の報告書の中で、獣骨あるいは足跡の記載があるものを調べまとめた。354冊の報告書中、獣骨あるいは足跡の記載があったものは、64冊であり、この中に68編の報告が掲載されている。なお、将来的に、群馬県内の市町村出版の出土獣骨記載もまとめたいと考えている。

1. 報告者

報告者の分析で、連名の報告は筆頭報告者のみとした。報告数を分析すると、宮崎重雄の35編と大江正直の16編に、本報告者である檜崎修一郎の11編と金子浩昌の3編が続く。その他、群埋文の現職及び元職の、石守 晃・井上昌美・齋藤英敏が1編ずつ報告している。

この中で、宮崎重雄は、元群馬県立大間々高等学校に勤務していた古生物学者である。1982年の初出から現在まで、出土獣骨の報告を多数担当している。この宮崎は、その他、出土人骨についても長い間、多くの報告を行っている。宮崎の特徴は、古生物学者として、人骨と獣骨を一緒に報告する事例が多いことである。また、大江正直は元群馬県畜産試験場の場長をつとめた獣医師である。宮崎重雄と同じく、1982年の初出から2000年まで、出土獣骨特に馬（ウマ）と牛（ウシ）について多数報告している。大江の報告数は、数こそ宮崎に比べて少ないものの、「上野国分僧寺・尼寺中間地域（4）」（大江他、1990）や「中里見遺跡群」（大江、2000）のように、膨大な数の獣骨を長大な頁をさいて詳細に報告していることが特徴である。本報告者の檜崎修一郎は、人類学を専門とするが、頼まれて獣骨も報告している。さらに、金子浩昌は、元早稲田大学文学部に勤務していた、動物考古学者である。主に、全国の縄文時代の縄文貝塚出土獣骨が専門であるが、縄文貝塚が極端に少ない群馬県では、弥生時代の遺跡である新保遺跡及び新保田中村前遺跡出土獣骨を一手に引き受けてまとめている。日本全国の出土獣骨を多数担当していることは有名であり、膨大な業績目録もまとめられている（金子浩昌著作目録を刊行する会編、1999・2004）。

2. 動物の足跡

（1）奇蹄目 PERISSODACTYLA

①ウマ [*Equus caballus*]

ウマの足跡の出土例は、4遺跡あり、白井大宮遺跡（宮崎、1993b）・白井北中道吹屋犬子塚吹屋中原遺跡（宮崎、1996c）・白井遺跡群（井上・宮崎、1997）・西長岡南遺跡（大江、1997）から発見されている。

（2）偶蹄目 ARTIODACTYLA

①ウシ [*Bos taurus*]

ウシの足跡の出土例は、1遺跡のみで、日高遺跡から発見されている（大江、1982b）。

②ニホンジカ [*Cervus nippon*]

シカの足跡の出土例は、1遺跡のみで、神戸岩下遺跡から発見されている（大江、2000a）。

（3）キジ目 GALLIFORMES

①キジ [*Phasianus colchicus*]

キジの足跡の出土例は、1遺跡のみで、神戸岩下遺跡から発見されている（大江、2000b）。

3. 出土獣骨

出土獣骨は、奇蹄目のウマ、偶蹄目のウシ・ニホンジカ・ニホンイノシシ、ウサギ目のニホンノウサギ、食肉目のオオカミ・イヌ・イエネコ・ホンドキツネ・ホンドタヌキ・ツキノワグマ・ニホンイタチ・ニホンカワウソ、霊長目のニホンザルに分けて調べた。また、出土例が多い、ウマ及びウシについては、出土遺跡の地図を示した。

(1) 奇蹄目 PERISSODACTYLA

①ウマ [*Equus caballus*]

ウマは、約6,000年前に南ヨーロッパで家畜化され、約1,600年前の古墳時代に日本へ持ち込まれたと推定されている(田名部、1995)。

ウマの出土例は、51遺跡あり、日高遺跡(大江、1982a)・三ッ寺III遺跡(大江、1985)・下佐野遺跡(宮崎、1986)・下東西遺跡(大江、1987)・三ッ寺I遺跡(宮崎、1988a)・田端遺跡(大江、1988)・上植木沓町田遺跡(宮崎、1988b)・上栗須遺跡(宮崎、1989c)・三ッ寺II遺跡(大江、1991)・熊野堂遺跡(宮崎、1991a)・上野国分僧寺尼寺中間地域遺跡(大江他、1990)・国分境遺跡(大江、1990)・有馬条里遺跡(宮崎、1991b)・融通寺遺跡(宮崎、1991c)・内匠日影周地遺跡(宮崎、1992)・下川田下原遺跡(宮崎、1993a)・神保富士塚遺跡(宮崎、1993c)・南蛇井増光寺遺跡(宮崎、1993d)・元総社寺田遺跡(宮崎、1993e)・白井二位屋遺跡(宮崎、1994a)・二之宮宮下東遺跡(宮崎、1994b)・二之宮宮東遺跡(宮崎、1994c)・行力春名社遺跡(宮崎、1994d)・下田中川久保遺跡(大江、1995)・二之宮宮下西遺跡(宮崎、1994e)・安養寺森西大館馬場阿久津宮内遺跡(宮崎、1995a)・小角田前遺跡(大江、1995b)・中江田ハッ縄遺跡(宮崎、1995b)・白井南中道遺跡(宮崎、1996a)・上栗須寺前遺跡(宮崎、1996b)・元総社寺田遺跡(宮崎、1996d)・多比良追部野遺跡(石守、1997)・矢田遺跡(宮崎、1997a)・白倉下原天引向原遺跡(宮崎、1997b)・御布呂芦田貝戸遺跡(大江、1998)・白井遺跡群(宮崎、1998a)・田篠塚原遺跡(宮崎、1998b)・和田山天神前遺跡(宮崎、1999a)・小八木志志貝戸遺跡(宮崎、1999b・2001a)・中里見原遺跡(大江、2000c)・元総社西川遺跡(檜崎、2001)・上滝榎町北遺跡(齋藤、2002)・鶴光路榎橋遺跡(檜崎、2002a)・宿横手三波川遺跡及び西横手遺跡群(檜崎、2002b)・下増田越渡遺跡(宮崎、2003)・菅谷石塚遺跡(檜崎、2003a)・稻荷塚道東遺跡(檜崎、2003c)・元総社西川塚田中原遺跡(檜崎、2003d)・荒砥宮田遺跡(檜崎、2004)・石原東遺跡(檜崎、2005a)・塚田村東塚田中原引間松葉遺跡(檜崎、2005b)から出土している。

(2) 偶蹄目 ARTIODACTYLA

①ウシ [*Bos taurus*]

ウシは、約9,000年前に西アジアで家畜化され、約1,600

年前の古墳時代に日本へ持ち込まれたと推定されている(田名部、1995)。

ウシの出土例は、20遺跡あり、日高遺跡(大江、1982b)・下東西遺跡(大江、1987)・三ッ寺I遺跡(宮崎、1988a)・田端遺跡(大江、1988)・三ッ寺II遺跡(大江、1991)・熊野堂遺跡(宮崎、1991a)・上野国分僧寺尼寺中間地域(大江他、1990)・国分境遺跡(大江、1990)・元総社寺田遺跡(宮崎、1993e)・白井二位屋遺跡(宮崎、1994a)・二之宮宮下東遺跡(宮崎、1994b)・新保田中村前遺跡(金子、1994b)・箱田古市前遺跡(大江、1995a)・小角田前遺跡(大江、1995b)・白井南中道遺跡(宮崎、1996a)・元総社寺田遺跡(宮崎、1996d)・矢田遺跡(宮崎、1997a)・田篠塚原遺跡(宮崎、1998b)・小八木志志貝戸遺跡(宮崎、2001ab)・鶴光路榎橋遺跡(檜崎、2002a)から出土している。

②ニホンジカ [*Cervus nippon*]

ニホンジカは、在来種で、縄文時代の貝塚からはイノシシと並んで多数発見されている。

ニホンジカの出土例は、12遺跡あり、日高遺跡(宮崎・木崎、1982)・新保遺跡(金子、1986)・下東西遺跡(大江、1987)・三ッ寺I遺跡(宮崎、1988a)・上野国分僧寺尼寺中間地域(大江他、1990)・新保田中村前遺跡(宮崎他、1993;金子、1994ab)・白井二位屋遺跡(宮崎、1994a)・二之宮宮下東遺跡(宮崎、1994b)・白井南中道遺跡(宮崎、1996a)・元総社寺田遺跡(宮崎、1996d)・小八木志志貝戸遺跡(宮崎、1999b・2001a)・久々戸遺跡(檜崎、2005c)から出土している。

③ニホンイノシシ [*Sus scrofa leucomystax*]

ニホンイノシシは、在来種で、縄文時代の貝塚からはニホンジカと並んで多数発見されている。イノシシは、ブタの先祖であり、そのブタは、約11,000年前に中国で家畜化され、約2,000年前の弥生時代に日本へ持ち込まれたと推定されている(田名部、1995)。しかしながら、イノシシとブタの区別は難しいとされており、弥生時代にブタが存在したかどうか論争になっている。

ニホンイノシシの出土例は、9遺跡あり、新保遺跡(金子、1986)・三ッ寺I遺跡(宮崎、1988a)・上野国分僧寺尼寺中間地域遺跡(大江他、1990)・新保田中村前遺跡(宮崎他、1993;金子、1994ab)・白井二位屋遺跡(宮崎、1994a)・白井南中道遺跡(宮崎、1996a)・元総社寺田遺跡(宮崎、1996d)・小八木志志貝戸遺跡(宮崎、1999b)・上滝榎町北遺跡(齋藤、2002)から出土している。

(3) ウサギ目 LAGOMORPHA

①ニホンノウサギ [*Lepus brachyurus*]

ニホンノウサギは、固有種である。ニホンノウサギの出土例は、2遺跡のみで、上野国分寺尼寺中間地域(大江他、1990)及び白井南中道遺跡(宮崎、1996a)から出土している。

(4) 食肉目 CARNIVORA

①オオカミ [*Canis lupus*]

オオカミは、在来種であり、日本国内では1905年に絶滅したと推定されている。

オオカミの出土例は、2遺跡のみで、新保遺跡(金子、1986)及び新保田中村前遺跡(金子、1994ab)から出土している。

②イヌ [*Canis familiaris*]

イヌの祖先は、オオカミである。イヌは、約35,000年前から30,000年前に西アジアで家畜化されたと推定されている(田名部、1995)。日本では、縄文時代から多数発見されている。

イヌの出土例は、10遺跡あり、新保遺跡(金子、1986)・新保田中村前遺跡(宮崎他、1993;金子、1994b)・元総社寺田遺跡(宮崎、1993b・1996d)・田篠塚原遺跡(宮崎、1998b)・中里見原遺跡(大江、2000)・小八木志志貝戸遺跡(宮崎、2001b)・西横手遺跡群(檜崎、2002b)・元総社西川遺跡(檜崎、2003d)・石原東遺跡(檜崎、2005a)から出土している。なお、上福島中町遺跡からは、オオカミかイヌの下顎が出土しているが、近世という大型犬が輸入されている時代でもあることから、イヌ科としか同定されていない(檜崎、2003b)。

③イエネコ [*Felis catus*]

イエネコは、約4,000年前から3,500年前に北アフリカで家畜化され、日本へは1,300年前から1,200年前の平安時代に持ち込まれたと推定されている(田名部、1995)。イエネコの出土例は、わずか1遺跡のみで、西横手遺跡群から出土している(檜崎、2002b)。

④ホンドキツネ [*Vulpes vulpes japonica*]

ホンドキツネは、在来種である。ホンドキツネの出土例は、わずか1遺跡のみで、新保遺跡から出土している(金子、1986)。

⑤ホンドタヌキ [*Nyctereutes procyonoides*]

ホンドタヌキは、在来種である。ホンドタヌキの出土例は、3遺跡あり、新保遺跡(金子、1986)・新保田中村前遺跡(金子、1994b)・小八木志志貝戸遺跡(宮崎、2001b)から出土している。

⑥ツキノワグマ [*Ursus thibetanus*]

ツキノワグマは、在来種である。北海道以北にはヒグマが、本州以南にはツキノワグマが生息している。ツキノワグマの出土例は、2遺跡あり、新保遺跡(金子、1986)及び新保田中村前遺跡(金子、1994b)から出土している。

⑦ニホンイタチ [*Mustela itatsi*]

ニホンイタチは、日本固有種である。在来種のイタチと1930年頃に移入された移入種のチョウセンイタチとがいる。ニホンイタチの出土例は、わずか1遺跡のみで、西横手遺跡群から出土している(檜崎、2002b)。

⑧ニホンカワウソ [*Lutra nippon*]

カワウソは、在来種であり、かつては日本全土に分布していたが、現在ではわずかに高知県のみが生息が認められる。カワウソの出土例は、わずか1遺跡のみで、新保田中村前遺跡から出土している(金子、1994b)。

(5) 霊長目 PRIMATES

①ニホンザル [*Macaca fuscata*]

ニホンザルは、日本固有種である。青森県の下北半島から鹿児島県まで分布しており、屋久島にはニホンザルの亜種であるヤクシマザルが生息している。ニホンザルの出土例は、2遺跡あり、白井二位屋遺跡(宮崎、1994a)と新保田中村前遺跡(金子、1994b)から出土している。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、文献入手や情報提供で、お世話になった大江正直氏と宮崎重雄氏に感謝いたします。また、励ましをいただいた群埋文の石守 晃氏と元群埋文の坂井 隆氏に感謝いたします。

引用文献(報告書を除く)

- 金子浩昌 1984 『貝塚の獣骨の知識』、東京美術
 金子浩昌著作目録を刊行する会編 1999 『金子浩昌著作集1』
 金子浩昌著作目録を刊行する会編 2004 『金子浩昌著作集2』
 国立歴史民俗博物館編 1991 「国立歴史民俗博物館研究報告：共同研究動物考古学の基礎的研究」、第29集
 国立歴史民俗博物館編 1992 「国立歴史民俗博物館研究報告：共同研究動物考古学の基礎的研究(続)」、第42集
 坂井 隆 2004 馬生贄祭祀遺構と「捏造」問題、「研究紀要」、22号、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 田名部雄一 1995 「11.家畜と人間の歴史」『講座文明と環境第8巻 動物と文明』(河合雅雄・埴原和郎編)、朝倉書店
 直良信夫 1965 『日本産狼の研究』、校倉書房
 直良信夫 1972 『古代遺跡発掘の脊椎動物遺体』、校倉書房
 直良信夫 1973 『古代遺跡発掘の家畜遺体』、日本中央競馬会弘済会
 直良信夫 1984 『日本馬の考古学的研究』、校倉書房
 西本豊弘・松井 章編 1999 『考古学と自然科学②：考古学と動物学』、同成社

[illegible]

No.	群埋文番号	報告書名	足跡	奇蹄目 ウマ(馬)	偶蹄 ウシ(牛)	ニホンジカ イノシシ	ウサギ目 ウサギ	食	肉	目	翼長目				
								イヌ オオカミ	ネコ	キツネ	タヌキ	ツキノワ グマ	イタチ	カワウソ	ニホンザル
1	第10集	日高遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
2	第43集	三ツ寺山遺跡・保連田遺跡・中里天神塚古墳	○(ウシ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
3	第46集	新保遺跡Ⅰ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4	第48集	下佐野遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
5	第58集	下佐野遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
6	第67集	三ツ寺Ⅰ遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
7	第72集	田端遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
8	第73集	青土上住持寺遺跡・青土上原之坂遺跡・上船木町田遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
9	第88集	上栗須遺跡・下大塚遺跡・中大塚遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
10	第93集	三ツ寺Ⅱ遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
11	第100集	熊野堂遺跡(2)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
12	第103集	上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
13	第104集	園分境遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
14	第116集	有馬桑里遺跡Ⅱ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
15	第118集	熊通寺遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
16	第138集	内匠誠法前遺跡・内匠日影原地遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
17	第147集	下川田下原遺跡・下川田平井遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
18	第150集	白井大宮遺跡	○(ウマ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
19	第151集	新保田中村前遺跡Ⅲ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
20	第154集	神保富士塚遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
21	第155集	南宮井頭寺遺跡Ⅱ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
22	第156集	元総社寺田遺跡Ⅰ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
23	第160集	白井遺跡群 集落編Ⅰ(白井二位屋遺跡)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
24	第163集	三之宮下東遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
25	第164集	三之宮東遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
26	第176集	新保田中村前遺跡Ⅳ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
27	第183集	行方春名社遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
28	第186集	下田中中遺跡・下田中川久保遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
29	第189集	三之宮下西遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
30	第190集	安養寺森西遺跡・大館馬場遺跡・阿久津宮内遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
31	第191集	新田古市前Ⅰ・Ⅱ遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
32	第192集	小角田前Ⅰ・Ⅱ遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
33	第200集	中江田八ッ組遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
34	第202集	白井遺跡群 集落編Ⅱ(白井南中道遺跡)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
35	第205集	上野須寺前遺跡Ⅲ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
36	第207集	白井北中道山遺跡・吹置中原遺跡	○(ウマ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
37	第208集	元総社寺田遺跡Ⅲ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
38	第213集	多比良道部野遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
39	第216集	矢田遺跡Ⅲ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
40	第219集	白井遺跡群 古墳時代編	○(ウマ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
41	第222集	白倉下原・大引向原遺跡Ⅴ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
42	第228集	西長岡南遺跡Ⅱ・Ⅲ	○(ウマ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
43	第234集	戸田戸遺跡・御岳宮遺跡・御井戸遺跡・西下井遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
44	第235集	白井遺跡群 中世・近世編	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
45	第244集	田端原遺跡・福島野形遺跡・福島鹿嶋下遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
46	第254集	和山田天神前遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
47	第256集	小八木志志目戸遺跡群Ⅰ	○(シカ) ○(キジ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
48	第262集	高浜向原遺跡・神戸宮山遺跡・神戸岩下遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
49	第271集	中里見遺跡群	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
50	第272集	小八木志志目戸Ⅱ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
51	第275集	小八木志志目戸Ⅲ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
52	第288集	元総社西山遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
53	第290集	上麓榎町北遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
54	第294集	鶴光路榎橋遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
55	第310集	御橋手三波山遺跡・西櫓手遺跡群	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
56	第312集	下田田越遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
57	第313集	菅谷石塚遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
58	第318集	上船島中町遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
59	第320集	熊向塚遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
60	第323集	元総社西山遺跡・塚田中原遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
61	第336集	荒砥宮田遺跡Ⅱ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
62	第340集	石原東遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
63	第347集	塚田中原Ⅳ遺跡・塚田中原(0区)遺跡・引間松葉遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
64	第349集	久々戸遺跡(2)・中瀬山遺跡(2)・西ノ上遺跡・上塚A遺跡	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

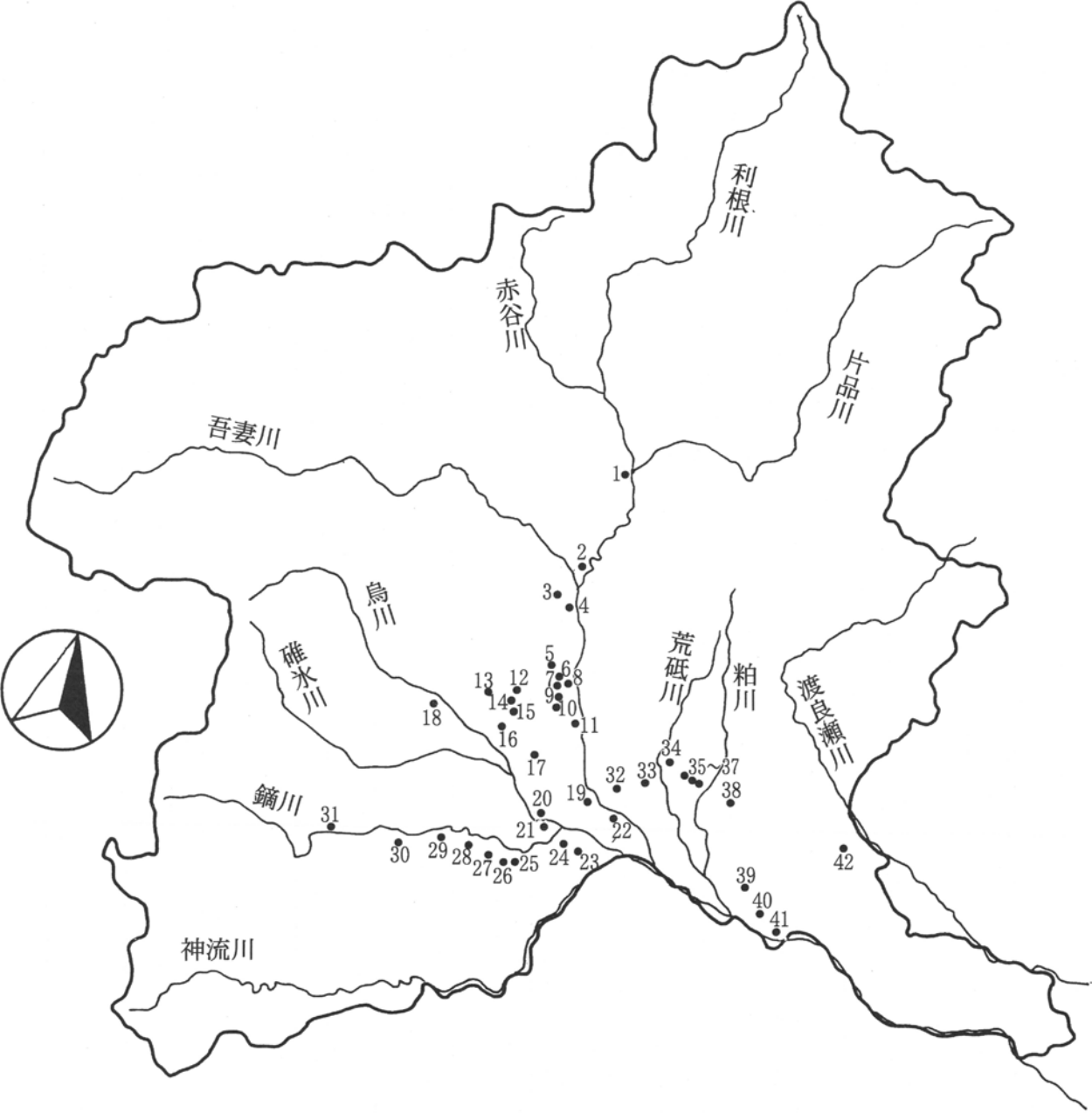
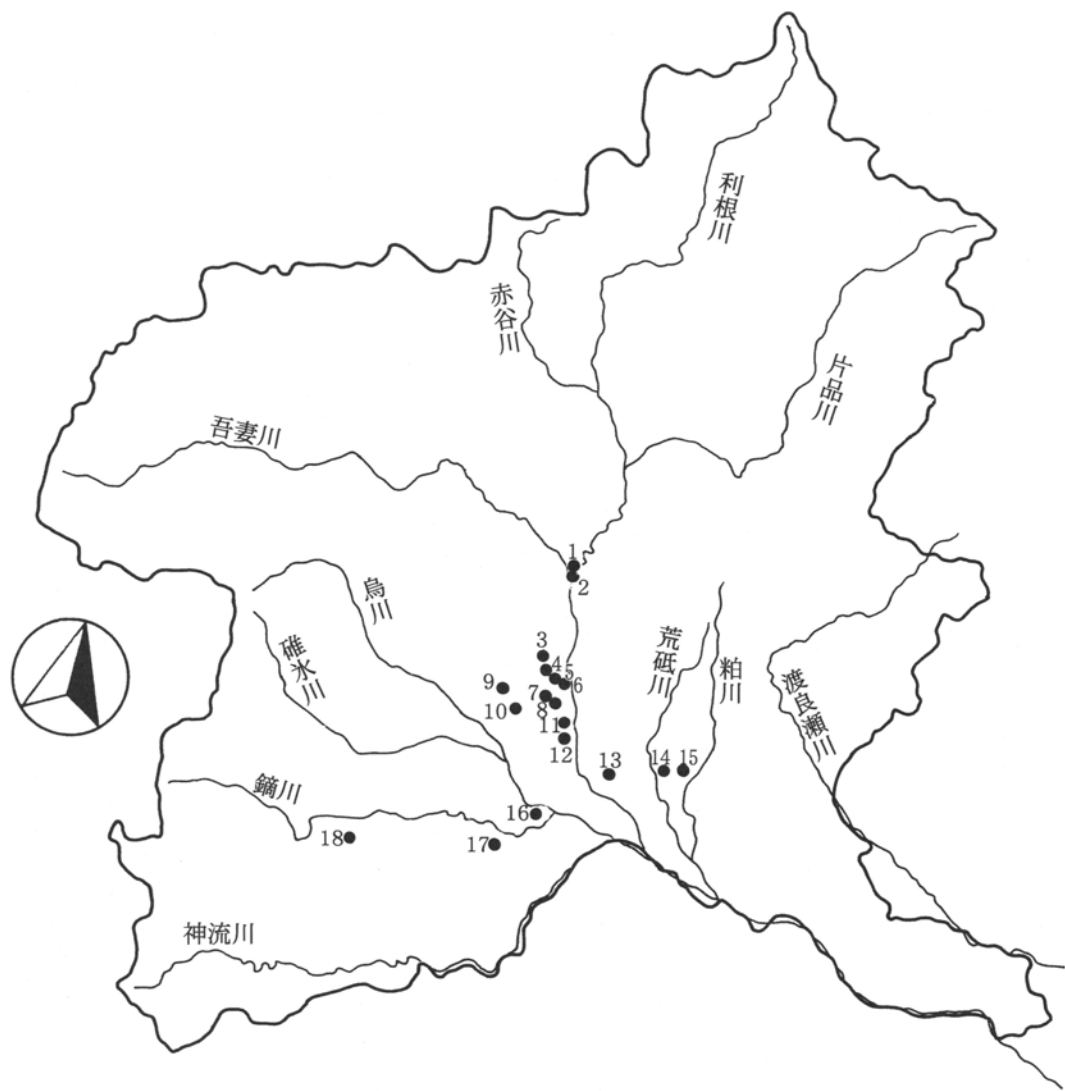


図1 ウマ（馬）の出土地図

No.	群埋文番号	報 告 書 名	報 告 者 名	出版年	頁	時 代	足跡	奇跡目 ウマ(馬)
11	第10集	日高遺跡	大江正直	1982年 a	398-417	古墳時代・平安時代	×	○
12	第43集	三ツ寺III遺跡・保渡田遺跡・中里天神塚古墳	大江正直	1985年	557-568	中世	×	○
20	第48集	下佐野遺跡	宮崎重雄	1986年	252-256	近世・近代	×	○
5	第58集	下東西遺跡	大江正直	1987年	916-931	奈良時代～室町時代	×	○
12	第67集	三ツ寺 I 遺跡	宮崎重雄	1988年 a	264-282	古墳時代(6世紀初頭)	×	○
21	第72集	田端遺跡	大江正直	1988年	1183-1215	奈良時代～中世	×	○
38	第73集	書上下吉祥寺遺跡・書上上原之城遺跡・上植木町田遺跡	宮崎重雄	1988年 b	377-381	中世(16世紀)	×	○
23	第88集	上栗須遺跡・下大塚遺跡・中大塚遺跡	宮崎重雄	1989年 c	655-673	近世	×	○
12	第93集	三ツ寺II遺跡	大江正直	1991年	251-270	古墳時代～中世	×	○
14	第100集	熊野堂遺跡(2)	宮崎重雄	1991年 a	138-156	平安時代(9世紀)	×	○
7	第103集	上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)	大江正直・木津博明・ 桜岡正信・友廣哲也	1990年	707-938	古墳時代～近代	×	○
6	第104集	国分境遺跡	大江正直	1990年	466	古墳時代～平安時代	×	○
4	第116集	有馬条里遺跡II	宮崎重雄	1991年 b	396-401	古代～近世	×	○
17	第118集	融通寺遺跡	宮崎重雄	1991年 c	721-723	平安時代～戦国時代	×	○
30	第138集	内匠諏訪前遺跡・内匠日影周池遺跡	宮崎重雄	1992年	245	中世～近世?	×	○
1	第147集	下川田下原遺跡・下川田平井遺跡	宮崎重雄	1993年 a	295-298	近世	×	○
2	第150集	白井大宮遺跡	宮崎重雄	1993年 b	66-68	古墳時代	○(ウマ)	×
27	第154集	神保富士塚遺跡	宮崎重雄	1993年 c	491-494	平安時代以降	×	○
31	第155集	南蛇井増光寺遺跡II	宮崎重雄	1993年 d	154-156	近世	×	○
9	第156集	元総社寺田遺跡 I	宮崎重雄	1993年 e	222-225	古墳時代～近世	×	○
2	第160集	白井遺跡群 集落編 I (白井二位屋遺跡)	宮崎重雄	1994年 a	290-297	7世紀～10世紀	×	○
36	第163集	二之宮宮下東遺跡	宮崎重雄	1994年 b	327-330	6世紀～14世紀	×	○
37	第164集	二之宮宮東遺跡	宮崎重雄	1994年 c	254	中世・近世	×	○
16	第183集	行力春名社遺跡	宮崎重雄	1994年 d	175-180	14世紀～16世紀	×	○
39	第186集	下田中中道遺跡・下田中川久保遺跡	大江正直	1995年	163-180	平安時代(9世紀)	×	○
35	第189集	二之宮宮下西遺跡	宮崎重雄	1994年 e	449-452	近世	×	○
41	第190集	安養寺森西遺跡・大館馬場遺跡・阿久津宮内遺跡	宮崎重雄	1995年 a	401-402	中世	×	○
40	第192集	小角田前 I・II 遺跡	大江正直	1995年 b	51-66	9世紀～10世紀	×	○
40	第200集	中江田ハッ縄遺跡	宮崎重雄	1995年 b	244-245	8世紀代	×	○
2	第202集	白井遺跡群 集落編 II (白井南中道遺跡)	宮崎重雄	1996年 a	411-417	7世紀～9世紀	×	○
24	第205集	上栗須寺前遺跡群III	宮崎重雄	1996年 b	493-495	近世	×	○
2	第207集	白井北中道II遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡	宮崎重雄	1996年 c	358-369	古墳時代	○(ウマ)	×
9	第208集	元総社寺田遺跡III	宮崎重雄	1996年 d	234-249	奈良・平安時代～近世	×	○
25	第213集	多比良迫部野遺跡	石守 晃	1997年	853	奈良・平安時代	×	○
26	第216集	矢田遺跡VIII	宮崎重雄	1997年 a	168-169	近世	×	○
2	第219集	白井遺跡群 古墳時代編	井上昌美・宮崎重雄	1997年	439-442	古墳時代	○(ウマ)	×
28	第222集	白倉下原・天引向原遺跡V	宮崎重雄	1997年 b	143-145	近世	×	○
42	第228集	西長岡南遺跡II・III	大江正直	1997年	172-175	4世紀～5世紀	○(ウマ)	×
16	第234集	芦田貝戸遺跡・御布呂遺跡・餅井貝戸遺跡・西下井出遺跡	大江正直	1998年	207	中世～近世	×	○
2	第235集	白井遺跡群 中世・近世編	宮崎重雄	1998年 a	152-153	中世～近世	×	○
29	第244集	田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡	宮崎重雄	1998年 b	367-376	古墳時代～時代不明	×	○
13	第254集	和田山天神前遺跡	宮崎重雄	1999年 a	449-452	中世～近世	×	○
10	第256集	小八木志志貝戸遺跡群 1	宮崎重雄	1999年 b	98-99	弥生時代	×	○
18	第271集	中里見遺跡群	大江正直	2000年 c	170-220	近世～近代	×	○
10	第272集	小八木志志貝戸 2	宮崎重雄	2001年 a	142-149	古墳時代	×	○
7	第288集	元総社西川遺跡	檜崎修一郎	2001年	91-94	中世～近世	×	○
19	第290集	上滝榎町北遺跡	齋藤英敏	2002年	1016	古墳時代～近世	×	○
32	第294集	鶴光路榎橋遺跡	檜崎修一郎	2002年 a	192-197	奈良平安時代～中近世	×	○
22	第310集	宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群	檜崎修一郎	2002年 b	420-427	近世	×	○
33	第312集	下増田越渡遺跡	宮崎重雄	2003年	122-123	近世	×	○
15	第313集	菅谷石塚遺跡	檜崎修一郎	2003年 a	174・177	中世以降	×	○
8	第320集	稲荷塚道東遺跡	檜崎修一郎	2003年 c	172-175	古墳時代～近世	×	○
7	第323集	元総社西川遺跡・塚田中原遺跡	檜崎修一郎	2003年 d	360-362	中近世	×	○
34	第336集	荒砥宮田遺跡II	檜崎修一郎	2004年	229-230	近世以降	×	○
3	第340集	石原東遺跡	檜崎修一郎	2005年 a	333-334	中世・近世	×	○
7	第347集	塚田村東IV遺跡・塚田中原(0区)遺跡・引間松葉遺跡	檜崎修一郎	2005年 b	320	8世紀～中近世	×	○

註：Noは、地図上の番号に符号する。



No	群埋文番号	報 告 書 名	報 告 者 名	出版年	頁	時 代	足 跡	偶跡目 ウシ(年)
12	第10集	日高遺跡	大江正直	1982年 b	418-421	平安時代・中世	○(ウシ)	○
3	第58集	下東西遺跡	大江正直	1987年	916-931	奈良時代～室町時代	×	○
9	第67集	三ツ寺Ⅰ遺跡	宮崎重雄	1988年 a	264-282	古墳時代(6世紀初頭)	×	○
16	第72集	田端遺跡	大江正直	1988年	1183-1215	奈良時代～中世	×	○
9	第93集	三ツ寺Ⅱ遺跡	大江正直	1991年	251-270	古墳時代～中世	×	○
10	第100集	熊野堂遺跡(2)	宮崎重雄	1991年 a	138-156	平安時代(9世紀)	×	○
5	第103集	上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)	大江正直・木津博明・ 桜岡正信・友廣哲也	1990年	707-938	古墳時代～近代	×	○
4	第104集	国分境遺跡	大江正直	1990年	466	古墳時代～平安時代	×	○
11	第156集	元総社寺田遺跡Ⅰ	宮崎重雄	1993年 e	222-225	古墳時代～近世	×	○
2	第160集	白井遺跡群 集落編Ⅰ(白井二位屋遺跡)	宮崎重雄	1994年 a	290-297	7世紀～10世紀	×	○
15	第163集	二之宮宮下東遺跡	宮崎重雄	1994年 b	327-330	6世紀～14世紀	×	○
8	第176集	新保田中村前遺跡Ⅳ	金子浩昌	1994年 b	66-156	弥生時代	×	○
6	第191集	箱田古市前Ⅰ・Ⅱ遺跡	大江正直	1995年 a	123-130	奈良時代～近代	×	○
14	第192集	小角田前Ⅰ・Ⅱ遺跡	大江正直	1995年 b	51-66	9世紀～10世紀	×	○
1	第202集	白井遺跡群 集落編Ⅱ(白井南中道遺跡)	宮崎重雄	1996年 a	411-417	7世紀～9世紀	×	○
11	第208集	元総社寺田遺跡Ⅲ	宮崎重雄	1996年 d	234-249	奈良・平安時代～近世	○(ウシ)	×
17	第216集	矢田遺跡Ⅷ	宮崎重雄	1997年 a	168-169	近世	×	○
18	第244集	田篠塚原遺跡・福島駒形遺跡・福島鹿嶋下遺跡	宮崎重雄	1998年 b	367-376	古墳時代～時代不明	×	○
7	第272集	小八木志志貝戸2	宮崎重雄	2001年 a	142-149	古墳時代	×	○
7	第275集	小八木志志貝戸3	宮崎重雄	2001年 b	181-192	近代	×	○
13	第294集	鶴光路榎橋遺跡	檜崎修一郎	2002年 a	192-197	奈良平安時代～中近世	×	○

註：Noは、地図上の番号に符号する。

図2 ウシ(牛)の出土地図